

エスカレーターで左右両側に立ち止まるように呼びかける京都府理学療法士会が駅などに掲示する啓発ポスターを制作した。「あなたの『よかれ』は、だれかの『やめて』につながる」など京都芸術大学の学生が考えたメッセージを添え、歩く人のために片側を空けることがマナーとされてきた常識からハビリの専門職でつくる同会は、けがやまひで左右どちらかの手すりにしか寄りかかれないと指摘。2019年から啓発活動を展開している。

啓発ポスターは21年から制作し、4回目となる本年度は京都芸術大(京都市左京区)の学生に協力を要請した。エスカレーターのイラストに「抜かされる恐怖、感じます」「本当は歩くところじゃない」「止まる。それだけ」「時

代は変わった」など学生が考案したキヤツチコピーを載せた5種類を作った。ポスターは、京都市営地下鉄やJR西日本など主要な鉄道事業者が掲示する。今年は近畿1府4県の理学療法士会も参加して10者によるキャンペーンに拡大。一部は府外の駅にも貼られるという。

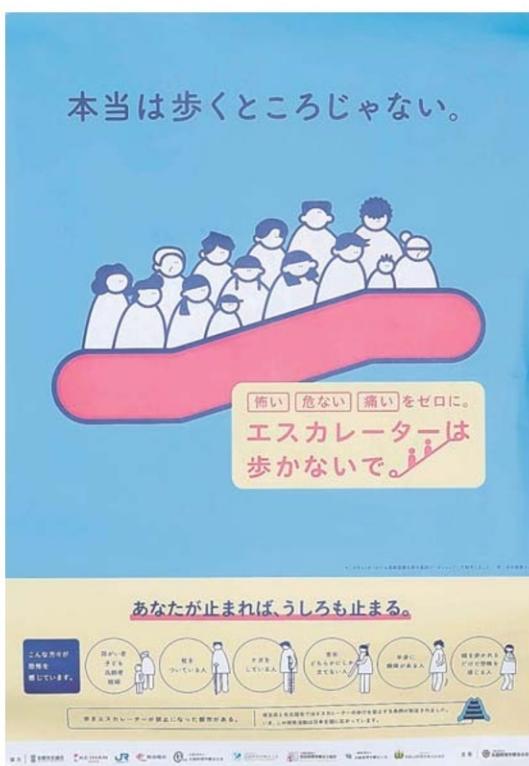
エスカレーターを歩く行為は転倒や接触の恐れがあり、メーカーを作った。

エスカレーターは、京都市営地下鉄やJR西日本など主要な鉄道事業者が掲示する。今年は近畿1府4県の理学療法士会も参加して10者によるキャンペーンに拡大。一部は府外の駅にも貼られるという。

エスカレーターを歩く行為は転倒や接触の恐れがあり、メーカーは「今年はさらに活動の広がりを実感できた。最近ではエスカレーターの両側に立つて利用される場面を見る機会が増えたようにも感じている。引き続き、啓発活動を行っていきたい」と話した。

(高橋道長)

片側を空けることがマナーとされてきた常識の転換を訴える
府理学療法士会のポスターの一つ



エスカレーターは歩くところじゃない。